

75年前の日常

—戦争の本当の怖さをまだ知らなかった—
～図書館所蔵写真から～

今から70年前の昭和20年(1945)8月、長かった戦争がようやく終わります。日本が負けたことに涙する人、家族や生活の基盤を失われ悄然とする人、戦勝国による占領に不安を募らせる人、戦闘から解放され命ながらえたことに安堵する人……。さまざまな戦時下の過酷な状況から人びとは解放されました。

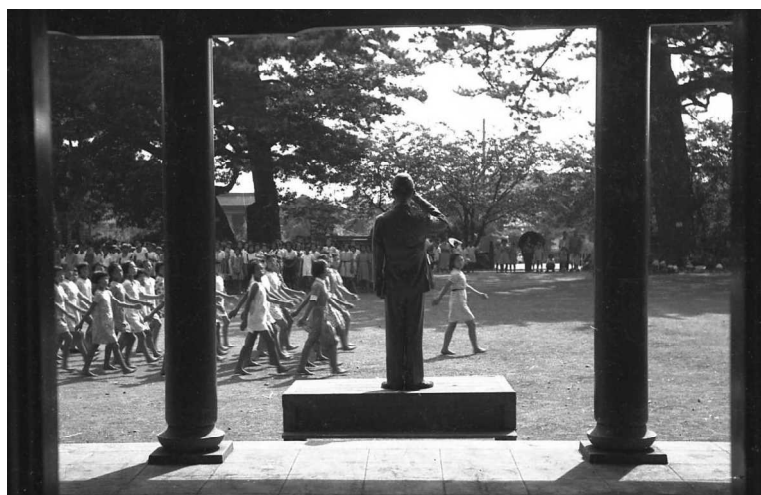
子どもも大人も、生活のすべてを勝つために費やした悲惨な戦争は突然始まったではありません。それではいつ、どのようにして、日本の人びとは戦争することを誰もが納得し、進んで協力するようになっていったのか。

昭和6年(1931)の満州事変後、日本は大陸侵攻を押し進め、同12年(1937)には日中戦争が始まります。しかし、日本に住む人びとにとって戦争は海の向こうの話で、差し迫った実感はありませんでした。

むしろ、勝ち進む日本軍にエールを送っていました。南京・上海を攻め落としても中国は降伏せず、日中戦争は泥沼化していきます。戦線が拡大し、消耗戦の戦闘が長引くなか、昭和15年(1940)になると日本軍は戦況打開のため南方進出に転じ、日独伊三国同盟を締結。一方、国民には贅沢を禁止し、米穀をはじめ物資の配給制を強いるといった、日常生活を犠牲にする仕組みが矢継ぎ早に整えられていきます。皇紀2600年奉祝の式典は、国民を「銃後」の「臣民」へと変容させるスイッチと機能しました。時を同じくして、小田原町ほか1町・3村が合併して小田原市が誕生します。

学校や役所、マスコミを通じてすべての国民が戦争に動員され、さらに本土空襲、沖縄地上戦、広島・長崎への原爆投下を経験するのは、まだ先です。

小田原に市制が施行された75年前は、まさに日常生活を戦争が覆い尽くし始める、ターニングポイントと重なります。



昭和15年10月 紀元2600年奉祝式典を前に分列行進の練習

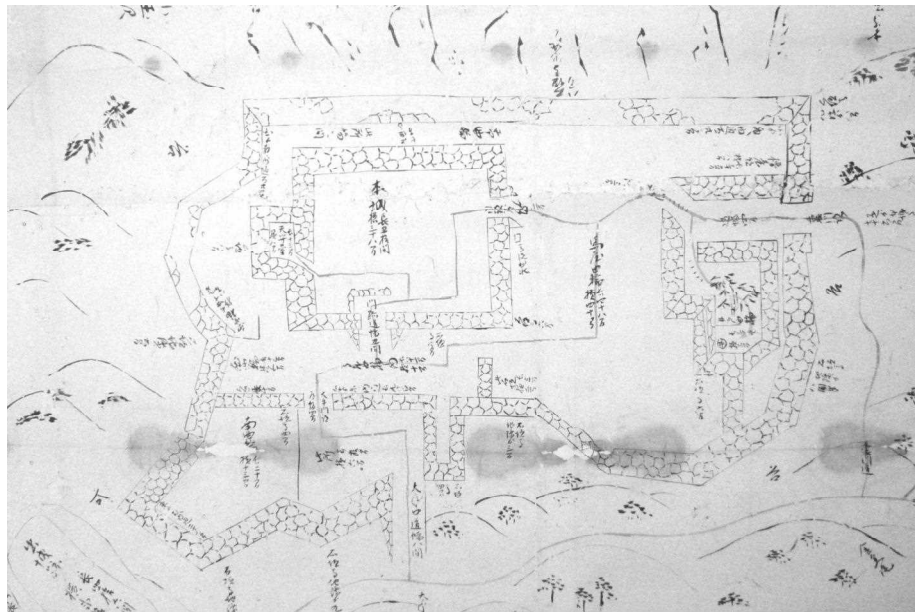


昭和15年ころ はたためく三国同盟の万国旗 (高野紙器)

崩れる前の石垣山城の石垣 ～収蔵資料の紹介～

天正18年(1590)、小田原合戦の際に豊臣秀吉が早川村の笠掛山かさかけやまに築いたのが陣城・石垣山城。一説に、築城途中、周りを遮る樹木を切り倒したところ、眼下の小田原城からは一夜にして城が出来あがったように見えたことから、石垣山一夜城とも呼ばれ、現在は国史跡になっています。小田原合戦後は、小田原城を預かる大久保忠世ただよの管理となり、江戸期は御林おやし(小田原藩有地)として扱われていました。石垣山城の特徴は、本丸・各曲輪周りに本格的な石垣を用いた点にあり、東国では最初の総石垣城郭であったといえます。後北条氏の籠城ろうじょうする小田原城は、おもに土塁と堀しゅうじ(障子堀)によって圍繞いりょうされており、石垣ではありませんでした。秀吉は近江の石垣職人穴太衆を召し寄せ、山中や早川から石材を切り出して石垣山城を築造しました。

のち大正12年(1923)の関東地震によって本丸・馬屋曲輪をはじめ大半の石垣が崩落し、現在は井戸曲輪・南曲輪がようやく原型を保っているのみです。その崩れる前の石垣山城の曲輪名、石垣の規模・状態を記録しているのが当館所蔵有浦家文書の「太閤御陣城相州石垣山古城跡」(No. 24)です。裏書に「享保五年(1720)庚子、忠英君依命再改之図也」とありますので、大久保忠英ただひで(のち忠方ただまさ)が小田原藩主であった時に、再調査のうえで作成された絵図であることがわかります。帯曲輪・西曲輪の早川側石垣には、石積み模様の描かれていない部分が見え、元禄16年(1703)の元禄地震による被害をうかがわせませす(『小田原市史』別編城郭)。



有浦家文書No. 24 太閤御陣城相州石垣山古城跡(部分)

当館所蔵の有浦家文書は古文書類878点からなり、昭和63年(1988)に小田原市指定文化財となっております。有浦家は元小田原藩士で、大久保忠職ただもとが唐津藩主となった慶安2年(1649)に150石取り・馬廻りとして召し抱えられ、代々当主は藩主の御側詰おそばづめを勤めました。そのため、江戸後期～幕末維新期の藩政に関する古文書や重臣との間でやりとした書状などが多く残されています。また、兵学・武術関係の資料や全国の城絵図が多数含まれています(『小田原の近世文書目録』4)。先祖は肥前国松浦郡有浦まつらに住み、寺沢氏の家臣で、中世松浦党に関する史料も残されていて、それら317点は現在佐賀県立図書館に寄贈され、同県の重要文化財に指定されています。

小田原市立図書館地域資料室 利用案内

小田原市立図書館(星崎記念館)2階。

年中無休(第4月曜の特別整理日、年末年始を除く)。

資料の出納・ご相談は9時～12時、13時～16時45分に承ります。

室内の資料は原則貸し出しいたしません。

*貴重資料の閲覧：事前の閲覧申請・ご予約をお願いいたします。

【編集後記】

地域資料室にて、写真展示「75年前の日常一戦争の本当の怖さをまだ知らなかったー」を始めました。お越しの際には、ぜひご覧ください。